

# 裁判員裁判における裁判官、自己、他者の能力認知の規定要因

裁判員裁判制度の認知 (1)

○楠見 孝<sup>1</sup>・上市秀雄<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>京都大学大学院教育学研究科・<sup>2</sup>筑波大学システム情報系)

キーワード：意思決定、バイアス盲点、批判的思考

Factors affecting perceived ability of professional and lay judges in the lay judge system

Takashi KUSUMI<sup>1</sup> and Hideo UEICHI<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>Graduate School of Education, Kyoto Univ., <sup>2</sup>Faculty of Engineering, Information and Systems, Univ. of Tsukuba)

Key Words: decision making, bias blind spot, critical thinking

## 目的

本研究では、裁判員裁判における裁判官、自己、他者の能力認知に影響を及ぼす批判的思考力、意思決定能力の自己認知、バイアス盲点などについて検討する。

裁判員裁判は、平成 21 年に始まったが、その制度に対する賛否の背景には、市民そして自己の認知能力へ肯定的評価があると考える。一方で、認知心理学では、判断における人の認知バイアスや自分は他者よりもバイアスを受けていないと考えるバイアス盲点の存在が指摘されている (Promin, 2004)。こうしたバイアスを修正し適切な判断を支えているのが、批判的思考態度である。しかしこれらの相互関係は未解明の問題である。そこで本研究では、これらについて、大規模な全国サンプルを用いて検討する。

## 方法

**参加者** 全国の1040 (男520, 女520) 名。16-70歳の調査会社のモニターが参加した。国勢調査に基づく人口比による地域・男女・年齢のサンプリングをおこなった。

**質問項目** (a) 裁判官、自己、他者の判断能力認知：裁判において、8項目 (例：先入観にとらわれない、感情に影響されない、被害者の心情を考慮、真実を見抜く、法律や判例に基づく) について判断ができるかどうかの5段階評定 (1:できない-5:できる) を、自分・裁判官・平均的日本人の3通りについて求めた。(b) 裁判員制度に関する知識 (3項目)、裁判員制度に関する肯定的態度 (5項目)、批判的思考態度 (22項目、平山・楠見, 2005)、意思決定における自己統制 (5項目)、省察 (4項目、以上5段階評定)、革新性 (11段階)、学歴、職業、年収などについて尋ねた。

## 結果と考察

**裁判官、自己、他者の能力認知** 図1は、自己、裁判官、平均的日本人についての判断能力評定の平均値を示す。自分の能力は、平均的日本人よりも8項目全てにおいて、有意に高く評価されている。一方、裁判官に比べて、被害者心情考慮以外は、一貫して低く評価されている。「マスコミ情報に左右されない」「先入観にとらわれない」などの自己能力を他者よりも高く評価する傾向は、自分の認知バイアスを、他者よりも過小評価するバイアス盲点を示していると考えられる。

### 知識、批判的思考力などの個人差変数との相関

表1に示すように、自己判断能力との相関を見ると批判的思考態度、自己統制、省察と.42以上の相関があり、裁判員裁判知識とは.29の相関があった。これらの変数との相関は、裁判官や日本人の能力

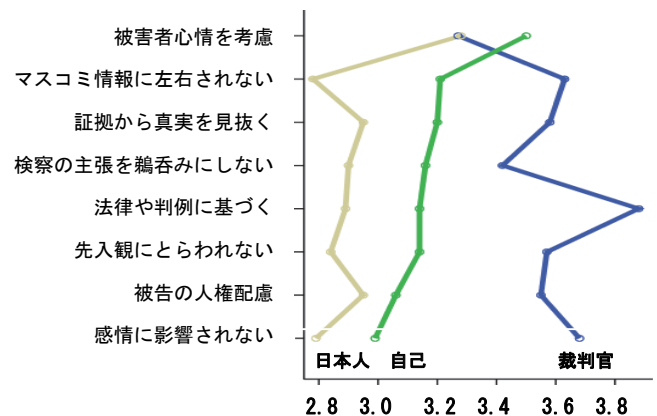


図1 平均的日本人、自己、裁判官の能力評定値 (5点尺度)

評価については、やや低くなっていた。また、裁判員制度の肯定的評価と自己能力の高さとの相関は.31であるが、平均的日本人や裁判官の能力との相関はいずれも.19であった。

つぎに、自他の能力差 (自己能力-日本人能力評定) との相関を見ると、自己能力との相関は.55と高く、批判的思考態度、自己統制との相関は.25以上であった。一方で、自他の能力差を大きく捉える人は、裁判官と自己との能力差 (裁判官能力-自己能力) を小さく捉えるという負相関-.35があった。

なお、自己能力と教育年数や年齢、革新性との相関は、いずれも.12-.13と低かった。また、男性は女性よりも自己能力、裁判員知識を高く捉え、自己と裁判官の能力の差異を小さく捉える傾向があった。一方、女性は男性よりも裁判官能力を高く捉えていた。

## 結論

以上の結果、裁判員裁判における自己の能力を平均的日本人よりも高く評価し、被害者心情の考慮を裁判官よりも高く評価する傾向が見られた。これらは、裁判員制度に関する肯定的態度と関連していた。

表1 裁判員裁判に関する自己、裁判官の能力評価の相関 (N=1040)

変数	自己の能力	裁判官の能力	他者の能力	自他の能力差	裁判官-自分能力差	裁判員知識	批判的思考態度	自己統制	省察
裁判官の能力	.433**								
他者の能力	.516**	.314**							
自他の能力差	.547**	.148**	-.436**						
裁判官-自分能力差	-.492**	.572**	-.166**	-.354**					
裁判員知識	.289**	.127**	.098**	.207**	-.140**				
批判的思考態度	.447**	.324**	.189**	.285**	-.094**	.193**			
自己統制	.484**	.310**	.258**	.256**	-.141**	.229**	.558**		
省察	.425**	.197**	.228**	.224**	-.196**	.173**	.674**	.587**	
裁判員制度肯定	.308**	.191**	.191**	.136**	-.095**	.328**	.203**	.183**	.172**